

「体言止め」に見る女子高校生のコミュニケーション —ターン交替と機能を通して—

高岸 美代子

学位取得年月：平成 22 年 3 月
取得学位名：人文科学修士
学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】名詞一語文、 ターン交替形式、 パッチワーク的会話構造

【要旨】

様々なコミュニケーションツールが発達している現代にあつて、我が国では逆に若者のコミュニケーション力の欠如が叫ばれる今日、本研究では、女子高校生(15組)を対象に使用頻度の高い発話末の「体言止め」に着目して分析考察した。ターン交替形式(①自己選択 ②他者選択 ③取得放棄 ④再保持 ⑤取得再放棄 ⑥最終自己選択)を用いて分類し、考察した結果、相づち的機能をもつ名詞一語文の繰り返しの多用、短いターン交替、早い話題転換から内向き表面的パッチワーク的会話構造が明らかになった。グローバル化した世界に逆行する日本語母語話者のコミュニケーションのあり方については、今後さらに実態を把握し、検証していく必要がある。

(たかぎし みよこ)

多義的動詞「切る」の意味構造

張 倩

学位取得年月：平成 22 年 3 月
取得学位名：人文科学修士
学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】プロトタイプ、 拡張義、 メタファー、 メトニミー、 シネクドキ

【要旨】

日本語学習者の語彙習得は、授業のデザインや辞書の配列などの原因で、多義的な語彙の語義の習得が困難である。本稿はこのようなことを解消するために、学習者の語彙習得に役立つ教科書や辞書開発に結びつく基礎研究を行った。

本稿は現代日本語において、極めて多義的な動詞「切る」を考察対象にし、それが持つ複数の語義および関連性を認知意味論的手法により明らかにした。その結果、「切る」のプロトタイプは<刃物などで><具体物を><分離する>になり、メタファーやメトニミー及びシネクドキにより各拡張義と動機付けられている。また、スキーマは「前景の連鎖に対し、異なる方向で連鎖する背景を補足する」ことが分かった。
(ちょう せい)